

夏は暑さから食欲不振や睡眠不足になりがちで抵抗力も落ちます。

抵抗力が落ちると、夏風邪など感染症を起きやすくなります。

今回は子どもが夏にかかりやすい病気の症状をご紹介します。

# 子どもが夏にかかりやすい病気



## ○ヘルパンギーナ

最初は38度位の熱が出て高熱が2～3日程度続きます。また、のどの奥が真っ赤に腫れ、ブツブツとした水泡ができます。そのため、のどの痛みを訴え食事が取れなかったり、水分を取れなくなってしまうことがあるため、脱水症状を起こすことがあります。

そのため、食事は刺激物を避け、飲み込みやすく消化しやすい食べ物を与えてください。

水分も取れない場合は、すぐに病院を受診してください。通常は1週間程度で回復します。

## ○手足口病

ヘルパンギーナに比べて、微熱ですむことが多く子どもは比較的元気です。その名前の通り、手のひら・足の裏・口の中などに発疹や水泡ができますが、手足の発疹のかゆみや痛みはそれほど強くありません。ただし、口の中はヘルパンギーナ同様痛むため、食事・水分の摂取には気をつけてください。

## ○プール熱（咽頭結膜炎）

急に38～40度くらいの熱が出て、のどの腫れや痛み・両目または片目が赤く充血し、目やにや目の痛みを訴えます。その他一般的な風邪の症状を呈することもあります。

プールを介して移ることが多いため、『プール熱』と呼ばれています。ウイルス感染で感染力が強いため、タオルなどは専用の物をつくり、他の人へうつさないような注意が必要です。



☆これらの病気はいずれもウイルスによる感染症で、特効薬などはなくそれぞれの症状にあわせた治療となってきます。

そのため、他の感染症同様『手洗い』『うがい』の予防が大切になってきます。

また、これらの病気はウイルス感染なので人から人へうつっていくうえに、脱水症状などを引き起こしやすく重症化することもあるため、はやめの病院受診をしましょう。